

編 集 後 記

本年度は、東日本大震災の被害による影響を考慮して、春学期の講義開始を5月に延期する等の対応に追われる中で始まった。震災の影響は、地震や津波による直接的な被害だけでなく、福島原発事故による放射性物資の拡散と風評被害、電力不足、被災した工場等からの原材料・部品の供給停止など、日常生活から経済面での影響が大きい。さらに、国際経済面では、米国、EU（ギリシャ、スペインなど）の財政赤字などの影響で、急速な円高が進んでいる。日本は、戦後最大の試練に直面しているといえる。さらに、追い打ちをかけるように、九州や新潟・福島での集中豪雨があり冷夏となりそうである。

学内では、春学期講義は7月末で中断して9月に実施される残りの講義まで8月は夏休みに入るが、オープンキャンパス、インターンシップ、ゼミ生対応など、それぞれの担当業務がある。例年より短い夏休みとなるが、経済・経営を研究領域とする者の一員として、じっくりと考える時間としたい。

本号には、論文2篇、研究ノート3篇で、計5篇を掲載することとなった。論文で寄稿された先生方には、月例研究会でご報告を頂き、活発な意見や議論が行われた。研究ノートについても、それぞれ校務で忙しい中での執筆である。寄稿された先生方にあらためて敬意を表します。

編集関係では、昨年度から投稿規定を掲載するようになったが、本年度から各教員の研究業績リストに、「学外・学内の研究助成受給状況」を記載することとなった。学会発表や論文等の執筆実績と並行して、調査・研究の準備段階を公表することで先生方の努力を評価していただく契機としたい。また、調査・研究の成果に期待をしたい。

(2011. 7. 31 Y.T.)